

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々 (1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600486-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1月から代表者の変更がありましたが、今までの百々の伝統を継続し心温かいホームを大切にしています。利用者様が第二のご自宅のように気兼ねなく過ごして頂けるよう、また身体拘束廃止を徹底し、安全に配慮しつつ自由な暮らしをして頂けるよう、ホームの職員だけでなくご家族様と一緒に支えていく体制をとっています。地域のサロンへの参加や防災訓練の参加など、地域の方との様々な交流を通して、開かれたホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1月に代表者の変更があったが、今までの事業所の方針を継続し「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日」と、利用者が、住み慣れた地域で第二の自宅として生活できるように支援している。また、毎月、便りと共に送る利用者一人ひとりの「暮らしの日記」は、一日一行の日記として、本人の言葉や様子が書かれ、家族の心が温まる支援である。管理者は、現在の利用者の生活様式や家族との面会等で制限が多い中、行政と相談をしながら、これまでの馴染みの関係継続を支援できるよう、取り組んでいる。また、医療機関と連携しながら家族の希望を受け止め、職員と共に看取り支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」と言う理念に基づき、利用者さんが第二の家庭として穏やかな生活を送って頂けるように心温かい支援を目指し実践に努めている。	理念については、入社時に職員に説明し、常に確認できるよう、スタッフルームの扉に掲示している。職員は、利用者が第二の自宅として穏やかに生活できるよう、日々、ケアを振り返り、話し合いながら理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し側溝掃除や防災訓練への参加など地域の一員として関わっている。又二つの自治会のサロンにも参加し、地域の方との交流の場を設けている。	自治会に加入し、側溝掃除など、決められた役割を果たしている。また、昨年、地域の防災訓練や自治会より声かけがあり、利用者が2カ所のサロンに参加している。近所の人からは、収穫した野菜の差し入れや、ホームで使用する古新聞の提供があるなど、交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様や見学者に対して実際の認知症の症状やそれに対するアプローチの方法を伝えながら相談に応じたり、運営推進会議などで具体的な支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は5つの介護施設で年2回の全体会議として運営推進会議を開催する取り組みをした。今年度はコロナによる感染対策としてホームでの会議の開催は中止としており、議事録を提出している。	新型コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議を中止している。行政や民生委員・自治会長など運営推進会議のメンバーに活動報告及び議事録を送るなど、書面会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームで困っているケース、対応の仕方などホーム内では解決できない悩みを役場に相談し、助言を頂くなど協力関係を築けている。	行政担当者に利用者の支援方法について、報告・連絡・相談を行いながら助言を得て、サービスの向上につなげている。また、空き状況や他のグループホームの情報など、連絡を密にして情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けて3ヶ月に一度勉強会を行っている。又拘束をすることによる弊害を理解しご家族にも身体拘束をしないことを説明し、理解に努めている。拘束をしないためのケアの工夫をスタッフ間で多く話し合いを行っている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3ヶ月に一度、具体的事例や弊害について勉強会を行い、職員間で拘束をしない支援方法について話し合い、ケアを実践している。グレーゾーンがあれば、すぐに検討、話し合いながら身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会だけでなく日頃の利用者さんの小さな内出血にもきめ細かく観察し、原因と対応策を立ててケアに努めている。又スタッフ間で注意し合い、皆で取り組む姿勢を大切にしている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が利用している。必要時に情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、ホームで出来る事と出来ないことを説明し納得の上で契約をしている。ご本人にも出来るだけ見学して頂いたり、一緒におやつタイムを過ごして雰囲気を感じて頂けるように進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の暮らしの日記に生活の様子だけでなく、ご本人の言葉を載せている。また、内容によってはメールを利用したり、メモに残し面会時にどのスタッフでもお伝えできるようにしている。	日常的に、利用者から要望を聞いたり、家族には、面会時や電話で聞き、それらを運営に反映させている。家族から、ケアの方法についての要望があり、対応方法を検討し実践している。利用者との会話を、一日一行の日記形式で職員が作成し、毎月の便りに同封し、家族に利用者の様子を伝えている。	利用者のひとことを加えた毎日の暮らしぶりが見えそうな一日一行の「暮らしの日記」を毎月の便りと共に送付し、家族に喜ばれている。さらに、家族の希望に応えられるよう、写真付きの献立表示の工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1月より代表者の交代により細かい連絡事項はその都度わかりやすく管理者より毎月の会議もしくは個々にお伝えしている。また職員からの疑問点については管理者を通して早急に返答するようにしている。	管理者と職員には、気軽に提案や意見・質問ができる信頼関係があり、毎月の会議で課題についての解決方法等を検討しながら運営に反映させている。代表の交代を機に、職員の意見も取り入れた就業規則の「見える化」を図り、条件の整備等で更に働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則をシンプル化し、常に見ることが出来るようにファイリングして保管してある。時間外労働の申告や有給休暇の推奨、体調不良によるシフト変更など、皆でカバーし合う勤務体制が取れており働きやすい職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて各担当者が自分で資料を準備して勉強会を開催している。また、3ヶ月ごとに身体拘束についての勉強会を行っている。また外部研修にも参加できるものはしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同運営推進会議にて議題に挙げ、他の方からの助言を頂いたり、電話にて相談に乗ってもらい同じようなケースでの対応の仕方について助言をもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、何気ない日常会話から徐々にご本人の思いや困っている事、不安なことを聞き出せるように努めている。実際にホームを見て頂くことも進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が抱えている問題や不安に耳を傾けつつ、ホームで対応出来ることとご家族様にも協力を頂きたいことなどをお伝えし、一緒に支えていくという関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の状況に応じて開始時期を決めている。時間帯に関しては15時までには入居して頂くようお願いしている。空床があればお試し入居にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て行うのではなく、出来る事を見極めて利用者さんに分担し、役割を持って活躍の場を設けている。時にはペアを変えたり、席を一緒にしたりして交流しながら活動出来るように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の一行日誌にて日頃の様子を伝わりやすく工夫している。また正直な報告をすることで生活する上で困っていることを一緒に考えて支えていく働きかけをしている。お孫さんのことを気にかけている方には、お孫さんからお手紙を頂く様お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンには馴染みの方が参加しており交流の場となっている。ホームにも友人が遊びに来られる方もみえる。個人的な外出についてはご家族様と一緒に外出して頂くようお願いしている。	現在、コロナ禍にある為、通常の馴染みの人との面会も禁止し、「玄関のみ」「フロアで」と、状況に応じて変更している。散歩中、近所の人と挨拶を交わす時は、馴染みの関係を継続できるよう配慮し、外食でよく利用していた飲食店の食事を取り寄せるなど、利用者の記憶をつないでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性を観察しながら、席替えを行ってみたり、活動の際には一緒に集まって行ったり孤立しないように配慮している。利用者さん同士で声を掛け合い、助け合う姿も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近はこちらから他施設へ移られる方はみえないが、移られる際には細かく情報提供を行い、スムーズに生活に馴染めれるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いの表し方は異なるが、日々の暮らしの中で利用者さんの立ち場にとって思いや希望を把握するように努めている。また、利用者さんの立場にたって考えることは、言葉に表せていない思いに気づくことになっている。	思いや意向を言葉で表現することが難しい利用者の場合は、表情を見ながら、答えやすい質問等で把握するよう努めている。職員は、日頃から利用者一人ひとりの立場に立って気持ちを推し量り、本人本位の支援ができるよう、情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の把握に努め、アセスメント、ファイルを見やすい位置に変更して職員が見れるような取り組みを行っている。生活歴を把握することで、日頃の会話にも自然と生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の検温の他、お昼からの検温を追加、体調管理に努めている。利用者さんの出来る力を会議で話し合い、手伝い過ぎず自立支援に向けてケアの見直し、統一を図って支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて介護ケアについての振り返りや評価修正を行っている。またご家族様からの意見も反映し、方法を話し合っている。施設にまかせきりにせず、一緒に支えていく体制を大切に取組んでいる。	職員は、日々、介護計画を確認しながら支援をし、介護記録に記載している。利用者と家族の意見を反映させて作成し、モニタリングを行いながら、利用者の生活に変化があれば、速やかに計画の見直しを行い、情報の共有をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんごとの介護記録とケアプランファイルがあり、記録に残している。変更部分や処置方法などは連絡ノートを活用し、勤務に入る時には把握した上で入れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症状の進行や身体機能の低下により受診が困難になった方の往診への切り替えや身体障害者手帳の申請も行っている。美容院、歯科、マッサージについても希望者は多く訪問で利用されている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様の協力を得ながら行きつけの喫茶店への外出や自宅への外出を行っている。ホームでは近隣のサロンへ参加し、馴染みの方との交流であったり、新しい関係を築けたり支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族が相談し自由に決めて頂いているが、提携医以外の通院は家族の方でお願いしている。途中からの変更も可能であり、受診から往診への切り替えも対応している。	契約時に、かかりつけ医を選択できることや途中から変更もできることを説明し、利用者と家族で決めている。協力医への受診は、利用者の状態によっては、職員が同行したり、往診を受けるなど支援している。従前のかかりつけ医への受診は、家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が在籍し、休日や夜間は電話対応出来る体制を整え、急変時には介護職と連携し対応出来るようにしている。看護師は主治医と連携し、内服管理、状態報告、医療的ケアの方法などの指示をもらい、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを早急に作成し入院先へスムーズに情報提供を行っている。退院時は入院先から情報を頂きご本人と面会し実際の状態と情報の両方を確認した上で退院調整を行っている。現在はコロナの関係で面会は行わず電話で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針は段階的に話し合いながら、家族の意向を確認し、ご本人だったらどうしたいだろうと家族間で話し合いをもうけてもらい、終末期に向けたホームで出来る対策を説明、準備している。看取り後は振り返りと職員の心のケアを行っている。	契約時に、重度化や終末期の対応について説明している。状態が変化した時には、その都度、利用者と家族の意向を確認している。看取りについても、利用者と家族の望みを受け入れ、関係機関と協力しながら、医師の指導の下、職員間で情報を共有し支援を行っている。	事業所は、終末期介護についての職員研修を重ね、適切な支援方法や情報の共有化で、利用者と家族が不安のないよう体制を整えている。看取り後は、職員の心のケアも行っており、今後も継続して取り組まれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で勉強会を行っており、心肺蘇生の手技を再確認する場を設けている。また、事故や怪我はすぐに看護師に連絡取れる体制が整っており、指示を受けながら落ち着いて対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度は地域の防災訓練に参加、ホームでは年2回の消防訓練の他、水害訓練も行っている。火災報知器と通報が一体化になったことで、早期に避難誘導に入れることが出来ている。備蓄類の見直しも行い、5年保存の物に変更している。	年2回の消防訓練と水害訓練を計画的に実践している。今年度は、地域の防災訓練は行われていない。訓練後の課題から、居室の名札、トイレや浴室のプレートを外すことで、避難完了の合図とし、人数を確認する方法が提案された。避難時のリュックには、持ち出し品を明記している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から暖か言葉を使うように心がけている。また、気になる言葉についてはスタッフ同士で注意し合うように取り組んでいる。各階毎月の目標を設定し、申し送り毎に読むことで意識して業務にあたるよう努めている。	職員は、声かけ時の声のトーンや言葉遣いに配慮しながら、傾聴に努めている。フロア毎に毎月の目標を決め、申し送り時に読み上げている。職員間で注意喚起をしながら、自己評価に努め、常に利用者一人ひとりの尊重と、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「する」「したくない」なども出来るだけ自己決定するよう思いが表出しやすいよう関係を築いている。コロナで外出出来ないため、食べたい物を希望される方が増え、出来るだけ希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に応じてご本人のペースで、居室だけでなく、食事の席であったりソファで談話されている。午後からは比較のお部屋で一休みされる方が多いが好きな時間にフロアにいられ思い思いの時間を過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一度2チームに分けて訪問美容師が来られる。カットだけでなく、カラーや顔そりを頼まれる方もみえる。普段の服装もその人らしいおしゃれができるように毎日同じ服や汚れたままにならないよう気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階からテーブルで出来る活動への参加、種取りからカットまで利用者さん同士で連携して行うこともある。職員も一緒に食べることで、会話のある食卓を提供している。	食事は、職員が三食を手作りし、利用者も献立内容により、役割りを持って食事準備に関わっている。職員も、利用者と同じ食事を食している。利用者の食事姿勢にも注意を払い、適切な高さのテーブルを使用したり、嚥下状態に応じた食事形態での提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、刻み食やトロミなど対応している。中でも固形がわずかくらいの極刻み食は器具を利用し、同じ食事形態を提供しやすくしている。水分チェックも行い、少ない方には別の飲み物に変更したり対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を導入したことで治療だけでなく毎週のケアや口腔ケアポイントのアドバイスを受けて日々のケアに取り組んでいる。半年ごとに無料検診も行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、全介助の方でも二人介助でトイレ排泄を継続している。早めのトイレ誘導の声かけも工夫し、自立を支援している。使用しているリハビリパンツやパット類については個々にあった物を話し合って検討している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、情報を共有しながら利用者にあった声かけとトイレ誘導を行っている。必要に応じて複数介助を行っている。排泄用品を適切に選択することで、利用者の自立支援と経済的負担の軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1ヶ月の排便管理を行い、下剤の使用や座薬、食べ物など個々に応じて対応している。また、午前、午後の体操だけでなく、廊下をリハビリしたり体を動かす機会を作るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回をベースとして一人ひとり入浴籠をお渡しし、一緒に着替えなど準備するようにしている。一日に入る人数も無理に多くせず、一人ひとりが時間を気にせず、ゆったり入れるように配慮している。	入浴時には、利用者の体調を確認し、一人ひとりの状態によっては見守りで支援したり、複数介助で安全に浴槽に浸かれるよう介助をしている。脱衣所や浴室の手すりの位置は、利用者が安全で使いやすい位置に設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休憩時間を設けている。座っている時間が長い方には歩く機会を作り、時にはソファでくつろいで頂いている。午後からは一休みされる方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットはダブルチェックを行いセットミスを防いでいる。内服する際にも日付、名前、時間をカンレダーで口に出して確認することで誤薬には十分気をつけて取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しやお盆拭き、簡単な調理作業などいつも同じ方が行うことがないように、それぞれの好みや出来る力を生かし職員が割り振ってお願いしている。他の階へお使いをお願いし交流を図ることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さんが楽しみにしている外食は2ヶ月ごとに行っていたが、コロナの関係で難しくなったため、取り寄せを行い楽しみごとを継続している。散歩や玄関での外気浴も天候がいい時に行っている。	以前は、季節の花見や外食など定期的に外出していたが、現在は、新型コロナ感染予防対策として、周辺の散歩や玄関での外気浴のみとなっている。家族との外出も、自宅と病院のみと制限しているが、行政と相談して外出先や方法を検討している。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については、ご本人とご家族の意向に沿っているが、金額は多くならないようお願いしている。ホームで使う個人的なパットや散髪代、受診代はこちらで立て替え請求書に付けることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話をかけたい時は職員が電話をかけご本人とお話出来るようにしている。ご家族からの電話はいつでもご本人に代わられるよう対応している。特にコロナ期間はお電話で話される方が多くみえました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には座って靴の脱ぎ履きがしやすいようにベンチを設置、椅子をもう一つ設置しご家族との面会の場としても利用。フロアは車椅子がすれ違うことが出来るよう配置を広くしている。	玄関は広く、ベンチと椅子の設置がある。過去のイベント写真や利用者の作品を掲示し、フロアの壁には、利用者と職員の季節の共同作品を掲示している。畳コーナーやソファ、椅子があり、利用者が好きな場所で寛ぐことができ、車椅子でも移動しやすい配置となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や相性を見ながら席の配置を検討している。利用者の方は席で過ごされたり、ソファに移動されたり、居室へ行かれたり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼット、ベッドが備え付けてある。テレビの持ち込みは自由、タンスの上や壁には家族との写真を飾られたり、作品を飾られたり、一人ひとり個性ある落ち着いた居室となっている。	今年度は入室はせず、廊下からの確認とした。ドアには名札があり、室内は整理整頓されており、筆筒の上に写真や小物が置かれている。床には、車椅子の固定位置として、目印のテープを貼り、ベッドから安楽に移乗できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり等だけでなく、洗濯を干す際椅子に座って安全に洗濯を干して頂く、逆に足腰の為立って干して頂くなど、一人ひとりの力を見極めて支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				